

平成29年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]

教科に関する調査

結果の概要、成果と課題及び指導改善のポイント

— 小学校版 —

平成30年2月19日（月）

佐賀県教育委員会

－ 目 次 －

教科ごとの調査結果とその分析

◎国語	
(1) 結果の概要	・・・・・・・・ 2
(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	・・・・・・・・ 4
◎社会	
(1) 結果の概要	・・・・・・・・ 6
(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	・・・・・・・・ 8
◎算数・数学	
(1) 結果の概要	・・・・・・・・ 10
(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	・・・・・・・・ 12
◎理科	
(1) 結果の概要	・・・・・・・・ 14
(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	・・・・・・・・ 16

教科ごとの調査結果とその分析

国 語

(1) 結果の概要

○ 教科正答率は、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。

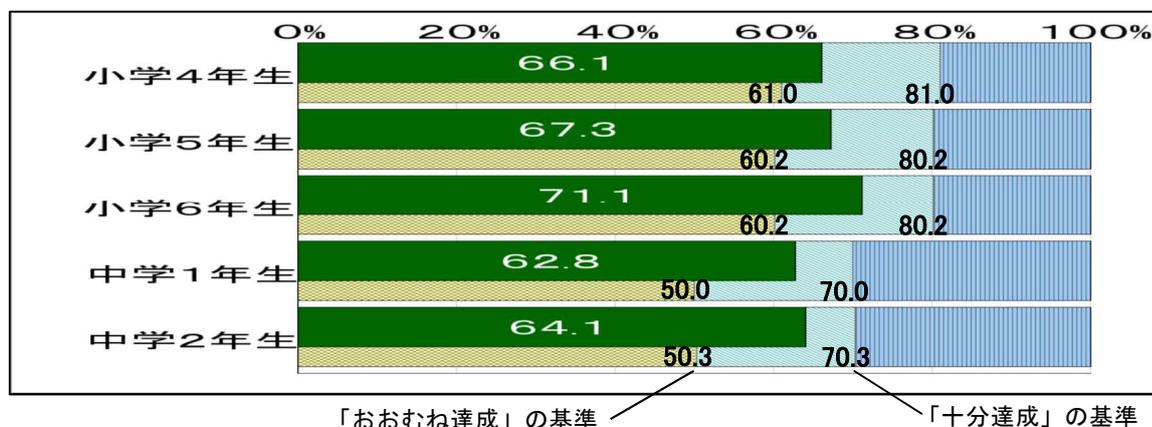
[グラフ1]

○ 「活用」に関する問題については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]

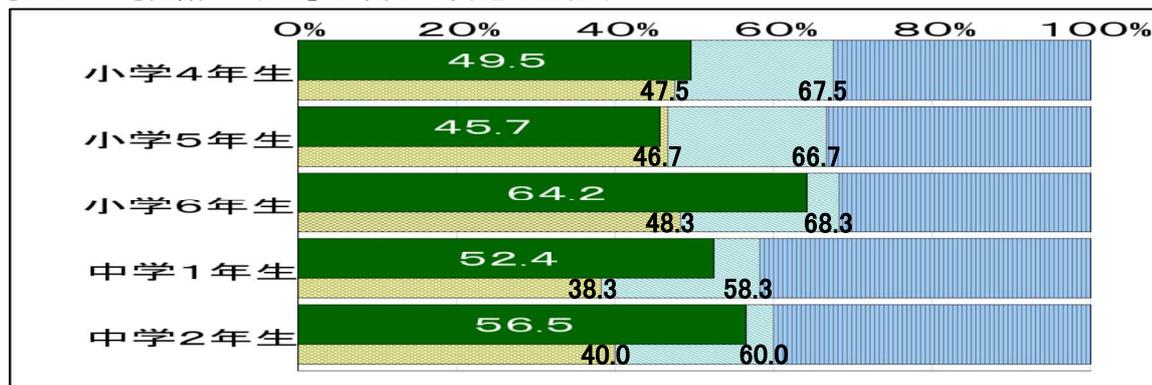
○ 観点別に見ると、小学6年生と中学2年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「話す・聞く能力」、「書く能力」、「知識・理解・技能」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、「書く能力」については、中学1年生と中学2年生で「十分達成」の基準を上回っている。「読む能力」については、小学4年生と小学5年生、中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～6]

○ 内容・領域別に見ると、「漢字の読み」については、小・中学校共に全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「漢字の書き」については、小学5年生と小学6年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「語句に関する知識」については、小学5年生で「十分達成」を上回っており、小学4年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ7～11]

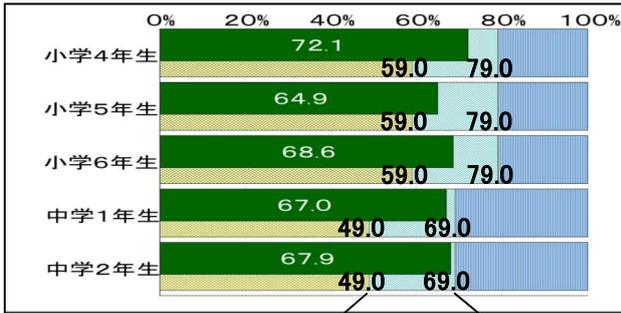
[グラフ1]国語 教科正答率



[グラフ2]国語 「活用」に関する問題の正答率



[グラフ3] 国語「話す・聞く能力」観点の正答率

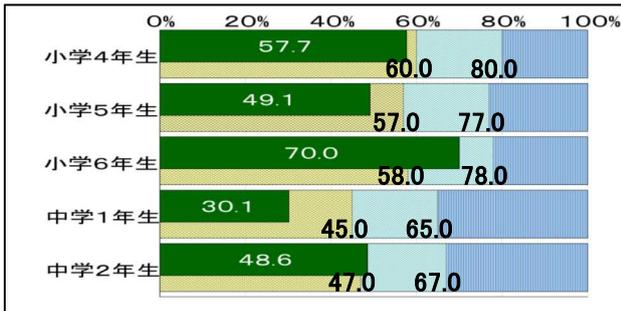


「おおむね達成」の基準 「十分達成」の基準

[グラフ4] 国語「書く能力」観点の正答率



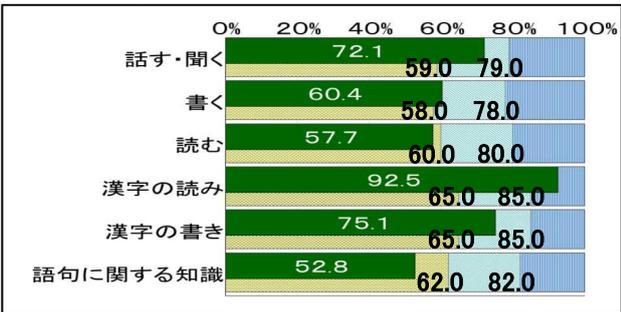
[グラフ5] 国語「読む能力」観点の正答率



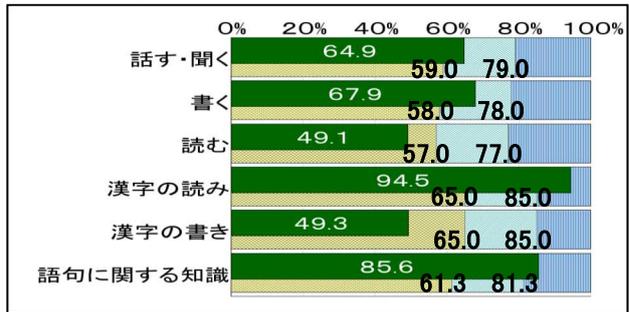
[グラフ6] 国語「知識・理解・技能」観点の正答率



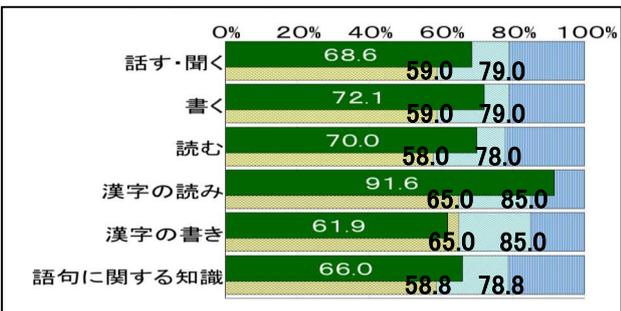
[グラフ7] 小学4年生 内容・領域別正答率



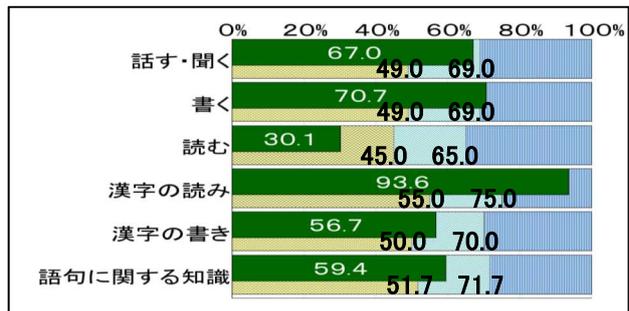
[グラフ8] 小学5年生 内容・領域別正答率



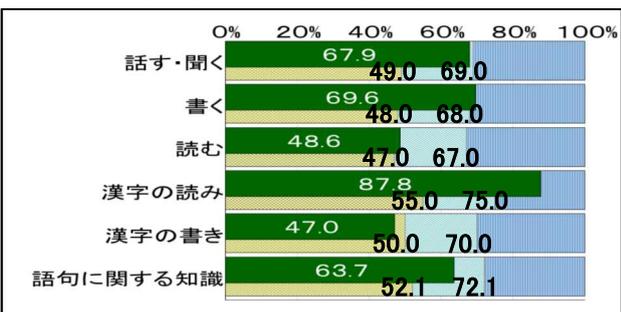
[グラフ9] 小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校国語（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 互いの考えの共通点や相違点を捉えて話し合ったり、話の意図や目的を考えて聞いたりすることができている。
(小学4年生¹四、小学5年生¹三)
- ◇ 目的や意図に応じて、取材の内容を考えたり、事実と意見を区別して書いたりすることができている。
(小学5年生³四、小学6年生³四)
- ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことができている。
(小学4年生⁵一、小学5年生⁶一、小学6年生⁶一)
- ◆ 1 立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことに課題が見られる。
(小学5年生²一、小学6年生²一)
- ◆ 2 目的や必要に応じて、書こうとすることの中心を明確にしたり、理由や事例を挙げたりして書くことに課題が見られる。
(小学4年生²二、小学5年生³五)
- ◆ 3 登場人物の会話に即して読んだり、優れた叙述に着目して自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。
(小学4年生³二、小学5年生⁴二)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合う力を育成するためには、グループや学級全体の話し合い活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - グループや学級全体での共通理解や問題解決に向けて、意見を出し合い一つにまとめていく「協議」や互いの考えの違いを大事にしながらかの考えを関係付ける「討論」などの活動を言語活動として設定していますか。
 - 協議や討論のモデルを示すなどして、児童が話し合いの仕方を理解できるような指導を行い、実際に協議や討論をする活動を単元の中に設定するようにしていますか。
 - 児童が、司会などの役割を理解できるようにし、話し合いの規模に応じて児童一人一人がそれぞれの役割を果たすような経験ができる機会を設けるようにしていますか。
 - 話し合い活動のあとに、自分の発言や友達の発言を振り返る時間を設けていますか。
- ◆ 2 書こうとすることの中心を明確にしたり、目的や必要に応じて、理由や事例を挙げたりして書く力を育成するためには、書く活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 児童がもった課題について調べさせ、意見を記述した文章や活動を報告した文章を書くような言語活動を設定していますか。
 - 理由や事例を挙げて書く際は、「なぜかという～」、「～のためである」、「例えば～」、「～などが当たる」などの表現を使って書くように指導していますか。
 - 自分の考えを明確に表しているか、表現の曖昧さはないかなど、自分が書いた文章を児童自身が推敲する活動を設定していますか。
 - 書いた文章などを児童がお互いに読み合っ、表現の仕方について助言し合ったり、よいところを見つけて感想を伝え合ったりするような活動を設定していますか。
- ◆ 3 登場人物の会話に即して読んだり、優れた叙述に着目して自分の考えをまとめたりする力を育成するためには、文学的な文章を解釈する活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 文学的な文章を読み、感想を述べ合うような言語活動を設定するようにしていますか。
 - 場面ごとに読ませるのではなく、物語全体に描かれた行動や会話に関わる複数の叙述を関連付けて登場人物の気持ちの変化や性格を想像させるようにしていますか。
 - 学習した教材と同じ作者や同じ題材の作品を比べ読みできるようにするなど、児童が日常的に文学的な文章に触れることができるように教室環境を整えていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

教科ごとの調査結果とその分析

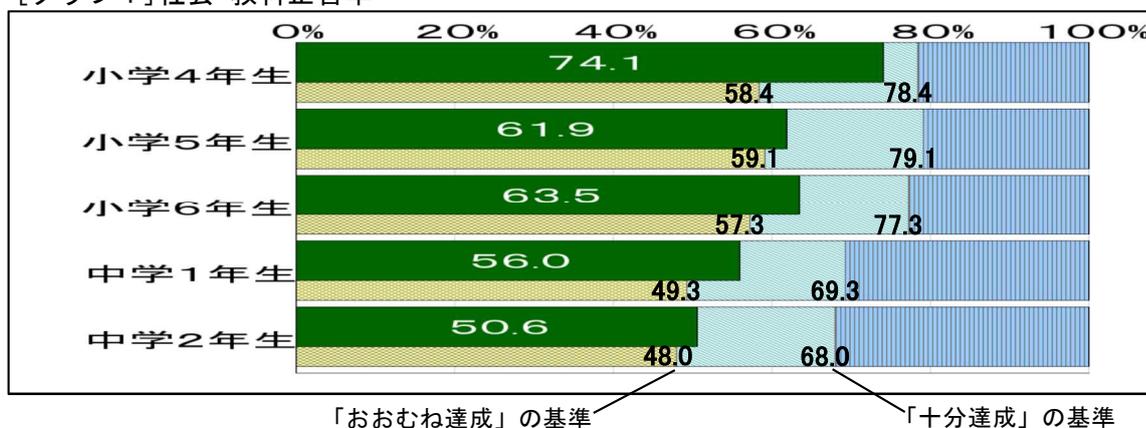
社 会

◎ 社会

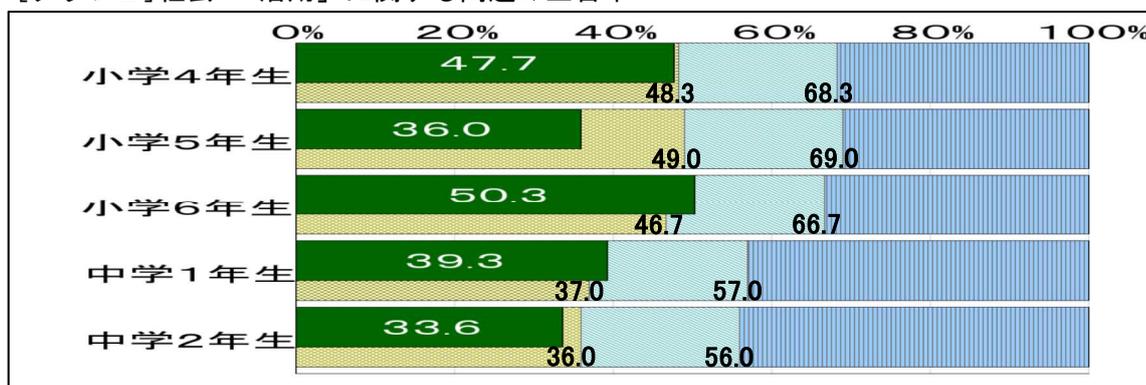
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。
[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学4年生と小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学4年生と小学6年生、中学1年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「観察・資料活用（資料活用）の技能」「社会的事象についての知識・理解」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、「社会的事象についての知識・理解」については、小学4年生で「十分達成」の基準を上回っている。「社会的な思考・判断・表現」については、小学5年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学4年生の「地域の生産や販売」「安全を守る」、中学1年生の「世界の生活と環境」については、「十分達成」の基準を上回っている。小学5年生の「国土の様子」「食料生産の様子」、小学6年生の「工業の様子（5年の学習内容）」、中学1年生の「歴史の捉え方」、中学2年生の「世界の諸地域」「中世」については、「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6～10]

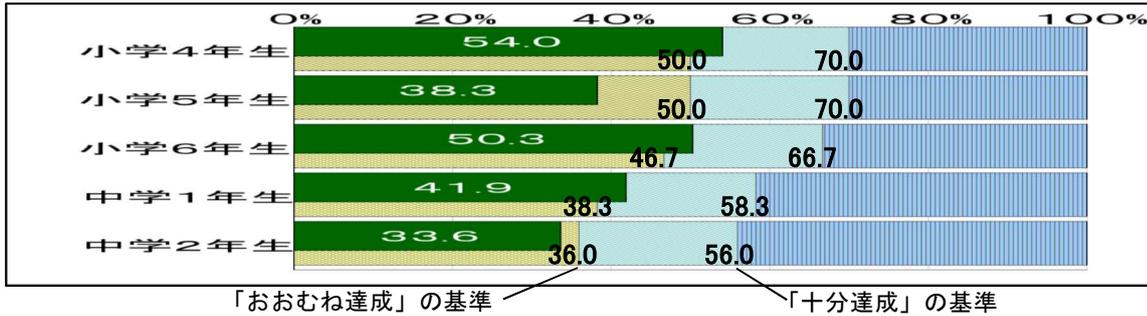
[グラフ1]社会 教科正答率



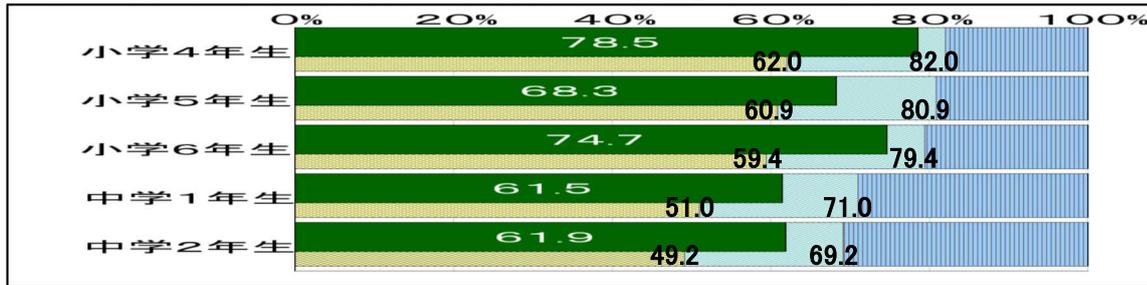
[グラフ2]社会 「活用」に関する問題の正答率



[グラフ3]社会「社会的な思考・判断・表現」観点の正答率



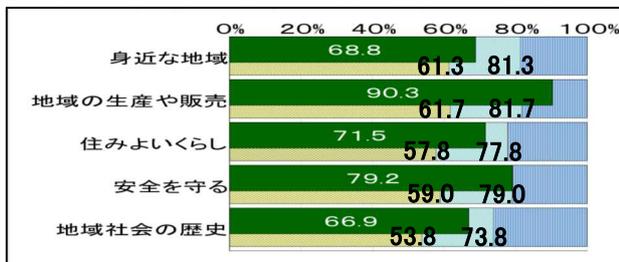
[グラフ4]社会「観察・資料活用（資料活用）の技能」観点の正答率



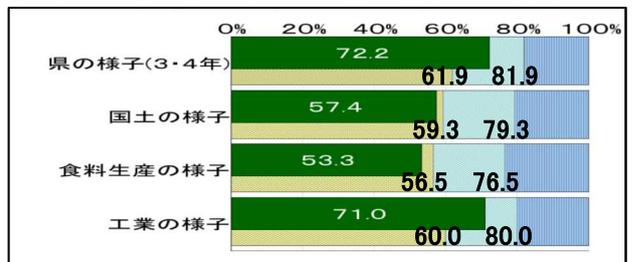
[グラフ5]社会「社会的事象についての知識・理解」観点の正答率



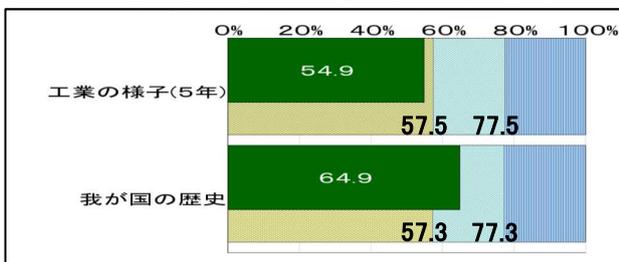
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



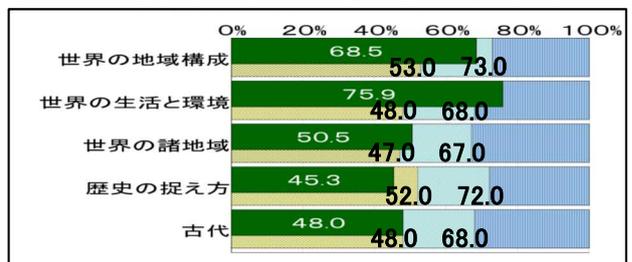
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



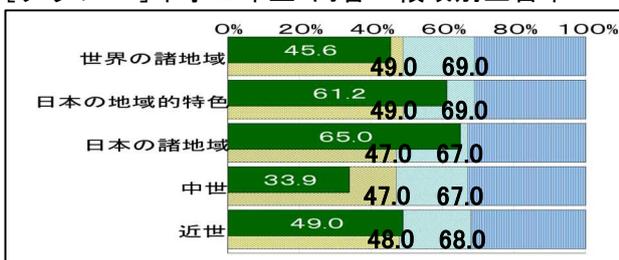
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



※ [グラフ7]の「県の様子(3・4年)」という表記は、第3・4学年で学習する内容であることを示している。

※ [グラフ8]の「工業の様子(5年)」という表記は、第5学年で学習する内容であることを示している。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校社会（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 県の様子や住みよいくらしなどの地域社会に関する知識が身に付いている。
(小学4年生³₂⁵(1)、小学5年生¹(1))
- ◇ 資料から必要な情報を読み取ったり、適切な資料を選択したりする技能が身に付いている。
(小学4年生²(1)(2)、小学6年生⁸(2))
- ◆ 1 資料から読み取った情報を基に、気付きや疑問をもち、学習のめあて（学習問題）を考えることに一部課題が見られる。
(小学4年生³(1)、小学5年生⁴(2))
- ◆ 2 複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現することに課題が見られる。
(小学4年生⁵(4)、小学5年生³(3)⁶(2))
- ◆ 3 国土や産業、歴史上の主な事象に関する知識の習得に課題が見られる。
(小学5年生²(2)(4)、小学校6年生¹(2)³(3))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 資料から読み取った情報を基に、気付きや疑問をもち、学習のめあて（学習問題）を考える力を育成するためには、「課題をつかむ」過程において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 児童にとって身近な資料や児童が疑問をもつような資料を提示していますか。
 - 児童から疑問や予想を引き出すために、資料の提示の仕方を工夫していますか。
 - 児童の発言に対して、“ゆさぶる発問”をするなどして、児童の「もっと詳しく調べたい」というような意欲を高めるようにしていますか。
 - 児童の気付きや疑問を生かして学習のめあて（学習問題）をつくるようにしていますか。
- ◆ 2 資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現する力を育成するためには、「調べる」過程において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 「なぜ～だろうか?」「どうすればよい（よかった）のだろうか?」というような発問をして、グループや学級全体で話し合うときのテーマを設定していますか。
 - 児童が、自分の考えを書いたり、話したりするときに、「なぜなら・・・」「理由は・・・」などの言葉を使って、根拠となる事実を表現できるように指導していますか。
 - 児童の説明が不足しているときに、「なぜ～だったら～になるのですか?」といったような問い返しの発問をしていますか。
- ◆ 3 国土や産業、歴史上の主な事象に関する知識を習得させるためには、「調べる」過程や「考え・まとめる」過程において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 「調べる」過程では、グループや学級全体で話し合う際に、学習した用語を使ったり、自分の言葉で説明したりできるように指導を行っていますか。
 - 「考え・まとめる」過程では、国土の様子や工業地域の分布などを図示したり、人物が行ったことをワークシートやカードにまとめたりする際に、学習した用語を使ったり、自分の言葉でまとめたりするように指導を行っていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て（方法）とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

教科ごとの調査結果とその分析

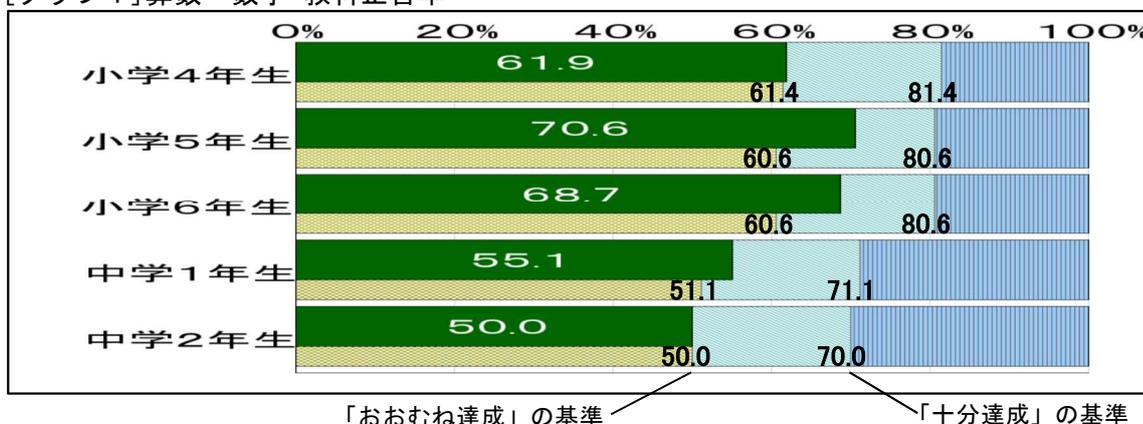
算数・数学

◎ 算数・数学

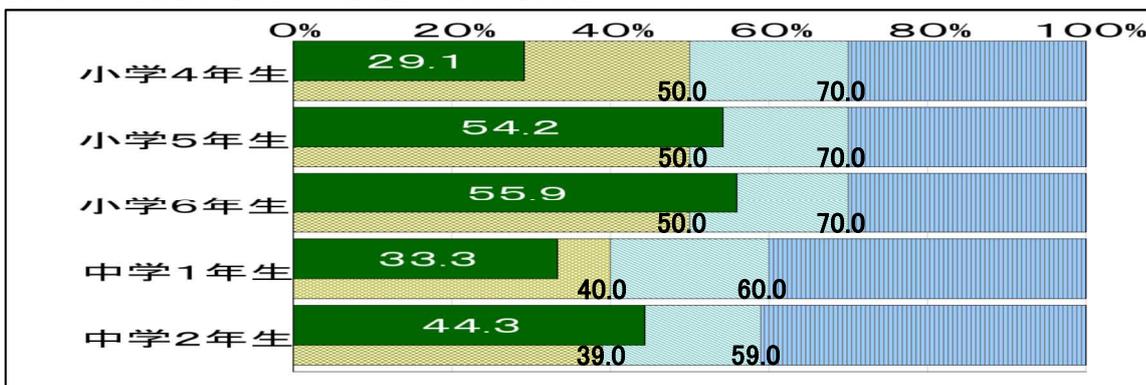
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学校全ての学年、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。中学2年生で「おおむね達成」の基準と同値である。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学4年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学5年生と小学6年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量や図形についての（数学的な）技能」については、小・中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数学的な考え方（見方や考え方）」については、小学4年生と中学1年生、「数量や図形（など）についての知識・理解」については、小学4年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学校では、「数と計算」「量と測定」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「図形」については、小学4年生と小学5年生、「数量関係」については、小学4年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。中学校では、「数と式」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「図形」「関数」「資料の活用」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6～10]

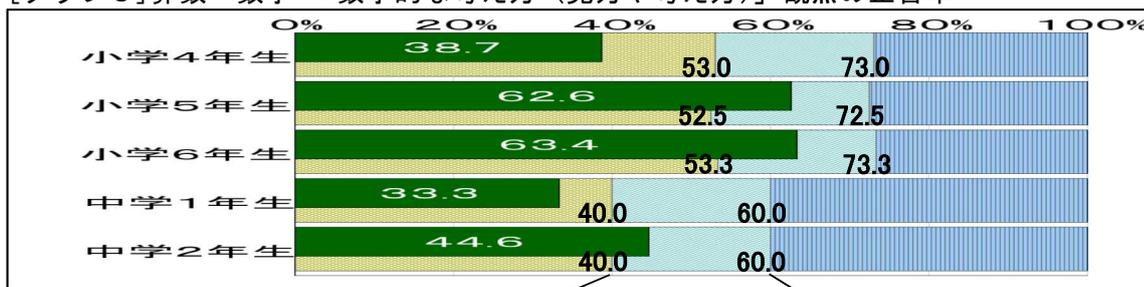
[グラフ1]算数・数学 教科正答率



[グラフ2]算数・数学 「活用」に関する問題の正答率

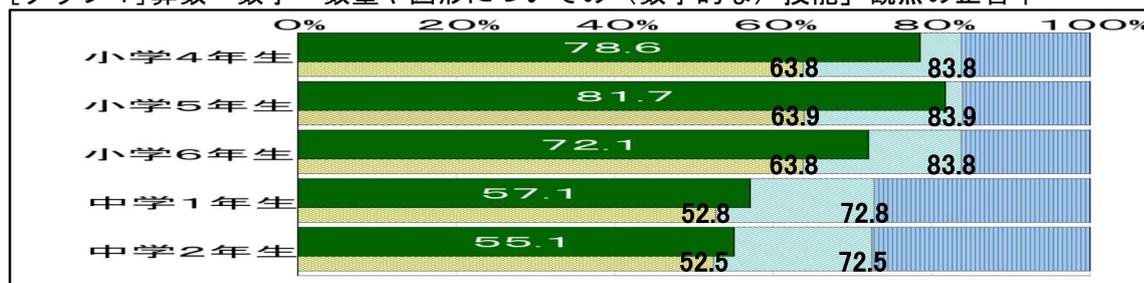


[グラフ3]算数・数学 「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率

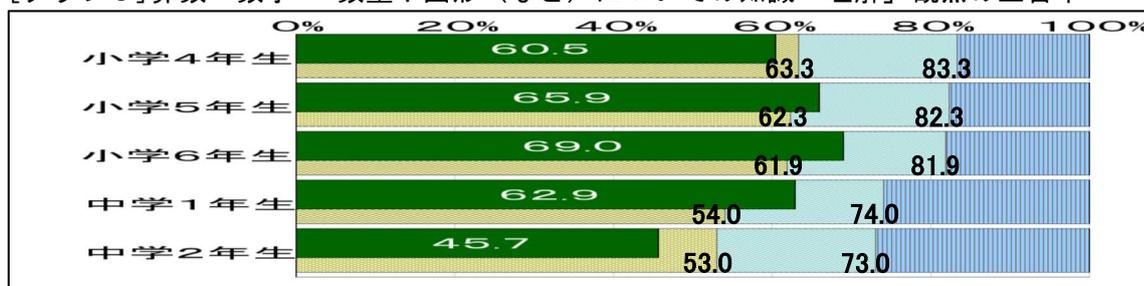


「おおむね達成」の基準 「十分達成」の基準

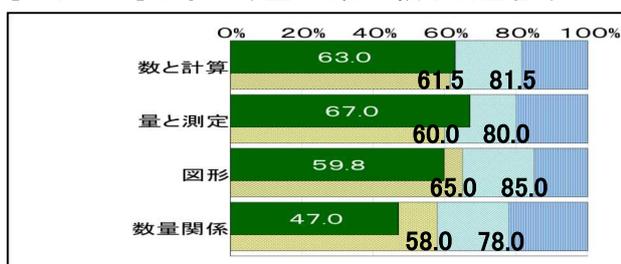
[グラフ4]算数・数学 「数量や図形についての（数学的な）技能」観点の正答率



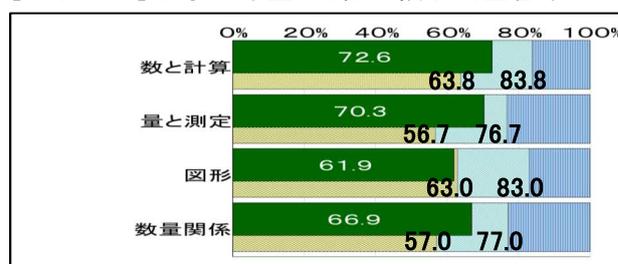
[グラフ5]算数・数学 「数量や図形（など）についての知識・理解」観点の正答率



[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



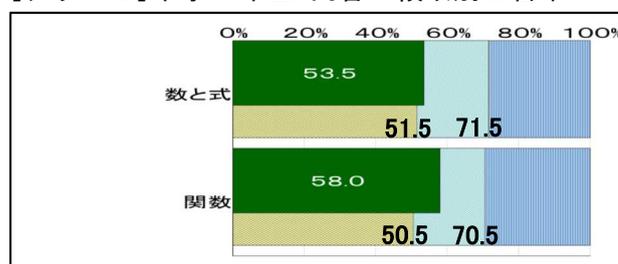
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



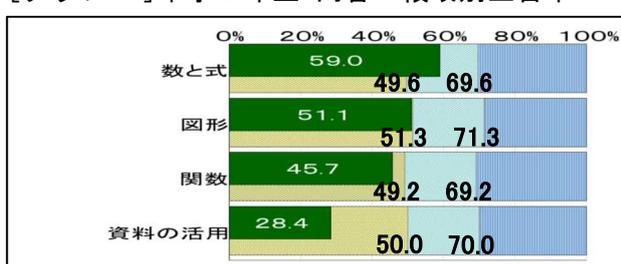
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校算数（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 整数や小数、分数の乗法の計算の基礎的な技能が身に付いている。
(小学4年生¹(1)、小学5年生¹(1)、小学6年生¹(2))
- ◇ 場面と図とを関連付けたり、場面と数直線とを関連付けたりして、二つの数量の関係を理解することができる。
(小学5年生³(1)、小学6年生³(1))
- ◇ 正方形の辺と辺の平行の関係、立方体の面と面の平行の関係を理解することができる。
(小学4年生⁷(2)、小学5年生⁷(2))
- ◆ 1 整数と小数の大小関係、分数の大小関係の理解に課題が見られる。
(小学4年生⁴(4)、小学5年生²(3))
- ◆ 2 小数の乗法や分数の除法の式の意味の理解に課題が見られる。
(小学5年生²(5)、小学6年生³(2))
- ◆ 3 グラフや表から必要な情報を読み取り、示された事柄が正しくない理由を説明することに課題が見られる。
(小学4年生¹¹、小学5年生¹²、小学6年生¹⁴)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 整数や小数の大小関係や分数の大小関係を理解することができるようにするためには、小数や分数の大きさや意味について考える場面を設定して指導することが大切です。
 - 整数や小数、分数を図や数直線などに表し、それぞれのおよその大きさを捉え、それを基に大小関係を判断するような活動を授業に位置付けていますか。
 - 表された小数や分数について、何が何個あるという見方（例えば、10.2は、10が1個と0.1が2個ある）や、何のいくつ分であるという見方（例えば、10.2は、0.1の102個分である）など、複数の見方を通して、児童がその大きさを理解できるように指導していますか。
- ◆ 2 乗法と除法の式の意味を理解することができるようにするためには、式の意味や求められた数値の意味を考える場面を設定することが大切です。
 - 児童に立式させるだけでなく、「なぜ、そのように立式できるのか」ということを、具体的な問題場面と関連付けながら図や式、言葉などを用いて児童が説明する活動を授業に位置付けていますか。
 - 立式に使った数値の意味や立式して求められた数値の意味について、児童が説明する活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 3 グラフや表から必要な情報を読み取り、示された事柄の正誤の理由を説明することができるようにするためには、問題の意味や他者の考えを解釈したり、誤った考えを正しい考えに修正したりする場面を設定することが大切です。
 - 問題解決に必要な情報だけを児童に提示するのではなく、児童が問題場면을解釈し、問題の解決に必要な情報を考えて選ぶような活動を授業に位置付けていますか。
 - 教師が示した考えや友達が発表した考えの意味を解釈し、図や式、言葉などを用いて説明する活動を授業に位置付けていますか。
 - 正しい考えだけでなく、誤った考えも意図的に示すなどして、児童に話し合う必然性をもたせ、示された考えの誤っている部分を見つけて誤っている理由を考えたり、誤った考えを正しい考えに修正したりするような活動を授業に位置付けていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

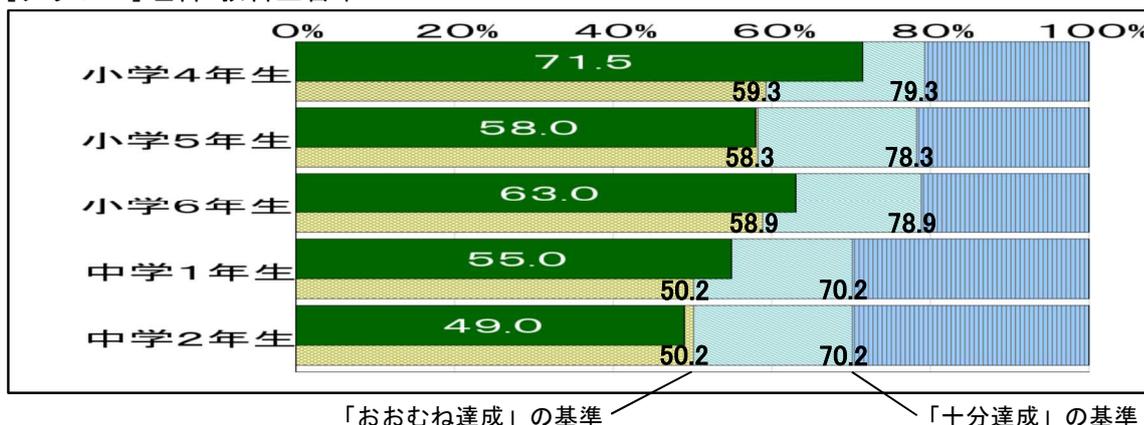
教科ごとの調査結果とその分析

理 科

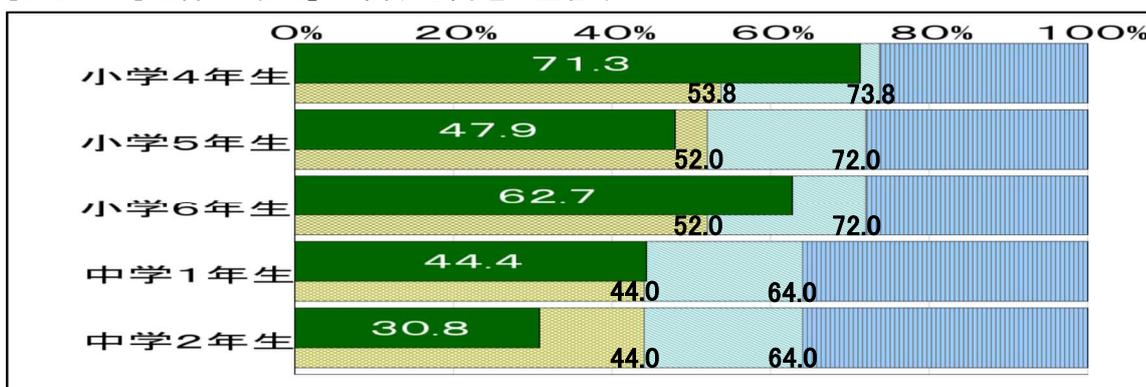
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ1】
- 「活用」に関する問題については、小学5年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ2】
- 観点別に見ると、小学4年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「科学的な思考・表現」については、中学1年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「観察・実験の技能」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「自然事象についての知識・理解」については、小学5年生と小学6年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ3～5】
- 内容・領域別に見ると、小学校では、「生命・地球」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「物質・エネルギー」については、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。中学校では、「生物的領域」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「物理的領域」「地学的領域」「化学的領域」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ6～10】

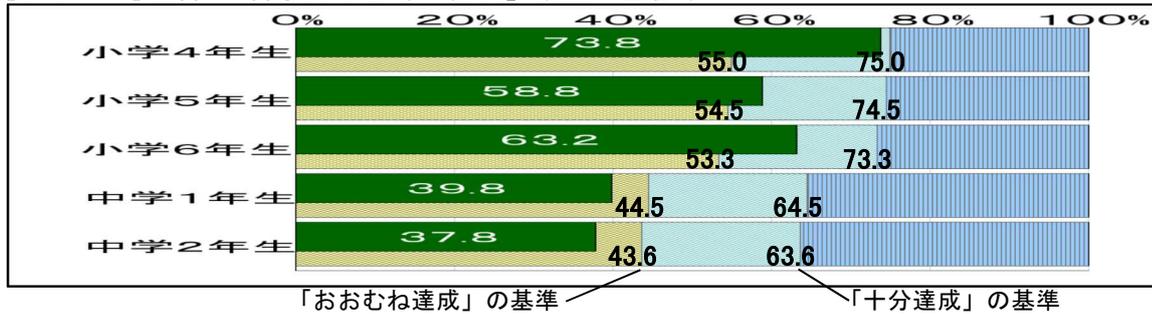
[グラフ1]理科 教科正答率



[グラフ2]理科 「活用」に関する問題の正答率



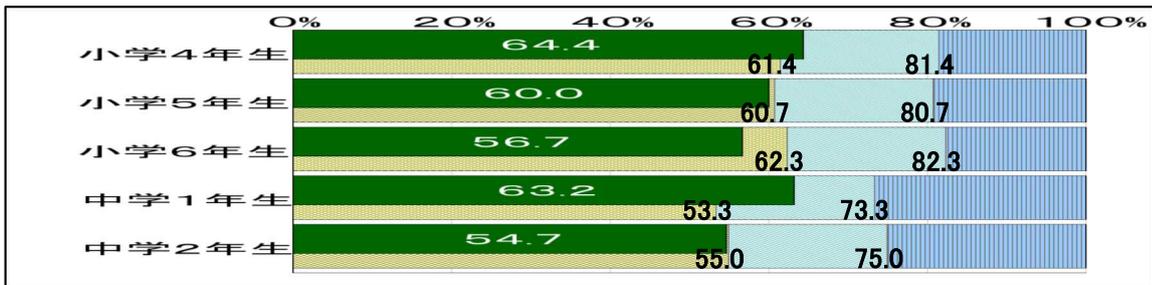
[グラフ3]理科 「科学的な思考・表現」観点の正答率



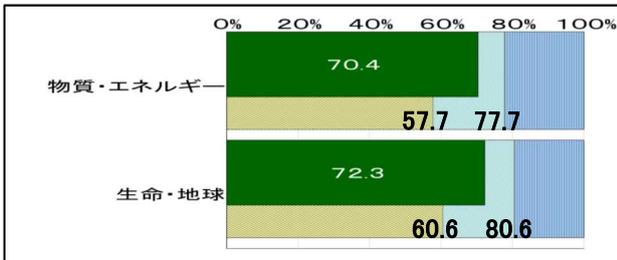
[グラフ4]理科 「観察・実験の技能」観点の正答率



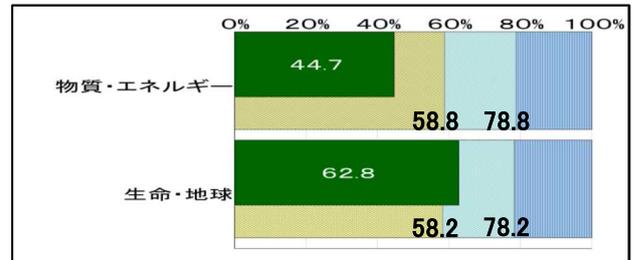
[グラフ5]理科 「自然事象についての知識・理解」観点の正答率



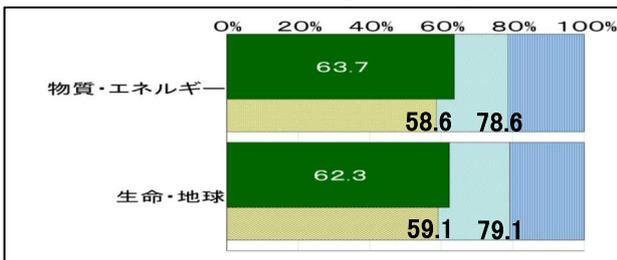
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



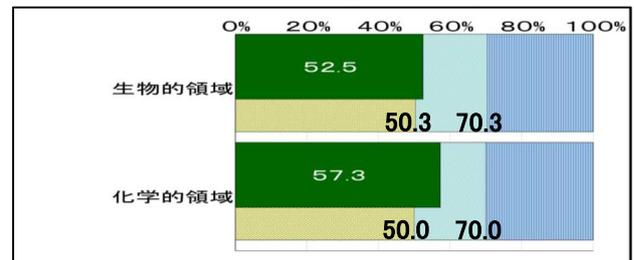
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



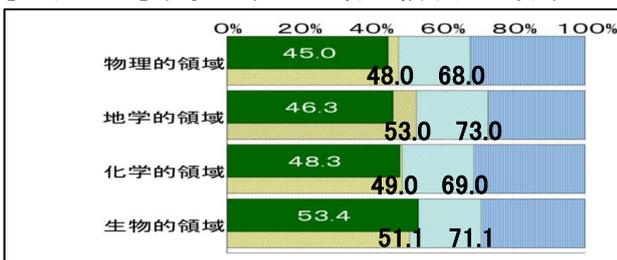
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校理科（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 「物質・エネルギー」については、自然事象の原因と結果を関係付けることができている。
(小学4年生¹(2)、小学6年生²(3)(4)(3))
- ◇ 「生命・地球」については、複数のものを比較し、それらの相違点を捉えることができている。
(小学5年生⁸(1)(9)(1)、小学6年生⁸(4))
- ◇ 天体や気象については、月や太陽を観察する方法や調べ活動の仕方を身に付けている。
(小学4年生⁶(1)(9)(2)、小学5年生¹²(1)、小学6年生⁸(1))
- ◆ 1 空気や電流など、原因が目に見えない自然事象について、学習したことを活用して解釈することに課題が見られる。
(小学4年生¹(4)、小学5年生¹(3)(11)、小学6年生⁴(1)(10)(2))
- ◆ 2 ものの性質や実験器具の名前のような基本的な知識の習得については、課題が見られる。
(小学4年生⁴(1)(7)(2)(10)(2)、小学5年生³(3)(10)(2)、小学6年生⁴(2)(5)(2)(2))
- ◆ 3 薬品を使ったり加熱したりする実験について、安全に留意して行うことに課題が見られる。
(小学5年生³(1)、小学6年生⁶(1))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 空気や電流など、原因が目に見えない自然事象について、学習したことを活用して解釈する力を育成するためには、児童が自然事象をイメージできるような指導を行うことが大切です。
 - 児童が実験したり身近な自然事象を観察したりする際に、空気や電流など目に見えないものを絵や図に表すなどして、事象の様子を表現する活動を設定していますか。
 - 絵や図に表した事象の様子を友達に言葉で説明するなどして、表した絵や図の妥当性を児童が考える活動を設定していますか。

- ◆ 2 名称や性質のような基本的な知識の習得を図るためには、学習した知識を活用する必然性がある活動の設定と、問題解決を通して理解することができるような指導を行うことが大切です。
 - 既に学習したことを使って考えさせる場面を設定し、その名前や使い方、性質まで合わせて表現させるようにしていますか。(例:「どのような実験をして、どうなったら、でんぷんがあると言えますか?」)
 - 児童が実験結果を考察する際に、自分の言葉で、「どのような実験を行ったか」「どのような結果が得られたか」「自分の仮説に対して、結果からどのようなことが言えるのか」といったようなことを整理して表現するなどして、自分が理解したこととその根拠となることを明らかにする活動を設定していますか。

- ◆ 3 安全に留意して観察や実験を行う力を身に付けるためには、児童が危険性について認識できるようにした上で、一人一人が実際に器具を操作できるような環境を整えることが大切です。
 - 「誤った操作をしたらどのような危険があるのか」ということまでを児童が理解できるようにして、児童が安全に留意して観察や実験を行おうとする意識を高めるような指導を行っていますか。
 - 可能な限り全ての児童が実際に器具を操作する機会を設けることができるように、器具の準備や授業の計画などを行っていますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください! → [ここをクリック](#)
佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

